

77 ～ 浄蓮寺址 ～ 111の組



浄蓮寺の創設は大永5(1525)年でこの地(県道438の車の待避所近辺・今井家の下11の組)にあった。現在の10の組には寛文4(1664)年に移転している

79 ～ 陣ヶ丘 ～ 11の組



「袴峠」と同じく平賀氏が攻めて来た時の備えとして「陣」を構えたと考えられる。小田城址からはこの「陣ヶ丘」がよく見通せるし河戸方面も見渡せるので「陣地」を敷いたのではないだろうか…。この地を地元の人々は「陣ヶ丘」と呼んでいる。

81 ～ 妙見権現社 ～ 11の組



全国には妙見と名のつく神社は数多くある。どれも中国から伝わった北極星信仰と結びついている。「妙見」とはすぐれた視力という意をもつ。昔堤の大池が決壊し土砂が流れこの社のある所に小山ができた。ここにはご神体がある。二つの石に浮かし彫をしたものとは5mばかり離れた所にある。

83 ～ 大迫原古墳 ～ 11の組



この地を大迫原という。横穴式古墳が1基あるが崩れて埋まった状態である。場所は末岡家(11の組)の山上にある。(山の神の谷を隔てた西の谷の山中…)

78 ～ 袴峠 ～ 11の組



「はかみだお」と読む。瀬谷峠より南に位置し河戸へ下る西の峠として重要であった。昔白市の平賀氏が小田城を攻めて来て戦いが劣勢となり袴を脱ぎ捨てて河戸へ下って逃げ帰ったという(民話)

80 ～ 山の神 ～ 11の組



今の堤(12の組)へ上がる道路の工事をしていた時大きな岩が出てきた。岩を砕いて道をつくったが地元のある古老の枕神に立って「私の住むところがなくなった…」というのでご神体を祀ったと伝えられる。「五穀大明神」と刻んであり地元の人が毎年清めてお参りしている。

82 ～ 袴峠を下り河戸側から ～ 河戸から撮影



昔は「瀬谷峠」よりこちらの方が近かったので村人達は袴峠をよく利用したようだ。戦いに敗れた兵士もここから逃げ帰ったのだろうか…?

84 ～ 瀬谷峠 ～ 11の組



今「瀬谷峠」は小田の西の玄関口である。朝夕は小田橋を渡って河内方面に下らず西条・八本松・広島に向かう車両が多くなった。瀬谷峠の七曲りカーブや道幅も広く緩やかに改良され雪の冬季間も安全になった。小田へ来る人「ようこそ…小田へ」。小田から西へ向かう人「またのお越しを」など…心なごむ峠になった。